



U字溝吊クランプ内張型
(パッド式)
BUC240N

取扱説明書

- この取扱説明書は、クランプの基本的なご使用方法及び扱い方について説明しております。ご使用前によくお読み頂き安全作業のため使用上の注意を守って正しくお使い下さい。

スーパークランプのご使用について

このたびはスーパークランプをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。スーパークランプは鋼材および加工品等の運搬用として開発された省力吊具です。

正しいご使用のお願い

作業の安全と能率を高めるため、本書の取扱い要領を十分にご理解頂いた上で、安全にご使用下さいますようお願い致します。

最高の能率と経済性

細かい点にまで配慮されたスーパークランプの持つ高度な機能と合理性および用途の広さは最高の能率と経済性を発揮します。

安全性には格別の配慮

特に安全面については、定格容量の3倍（または2倍）の荷重による引張試験など、十分な安全性を求めるとともに製品個々に検査番号を付記するなど、格別な配慮を致しております。

安全上のご注意



玉掛け用クランプをご使用になる前に、
必ずお読み下さい。


玉掛け用クランプ(以下、クランプという)の使い方を誤ると、吊り荷の落下などの危険な状態になります。

ご使用前に、必ずこの取扱説明書を熟読し、正しくお使い下さい。


クランプを購入され使用される事業主はもとより、作業される方に『クレーン等安全規則』『玉掛け用クランプの作業マニュアル』『貴社の作業基準』などを教育し、作業される方が、クランプの知識・安全の情報・そして注意事項の全てについて習熟されたことを確認の上、作業に従事させて下さい。


「玉掛け安全協議会」では、この取扱説明書に使用する注意事項を『危険』『注意』の2つに区分しています。


	危 険	取り扱いを誤った場合に、危険な状態が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。
	注 意	取り扱いを誤った場合に、危険な状態が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合、および物損的損害が想定される場合。

なお、注意に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容が記載されていますので、必ず守って下さい。

●記号の説明




 ◇・△記号は、危険・注意を促す内容がある事を告げるものです。図の中に具体的な注意内容が記載されています。(左図の場合は挟まれ注意)

 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。







 ○記号は、行為を強制したり、指示したりする内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な指示内容が記載されています。(左図の場合は2点吊り)

※お読みになった後は、お使いになる方がいつでもみられるところに必ず保管して下さい。






1. 取り扱い全般について

 危 険	
<ul style="list-style-type: none"> ●取扱説明書の内容を熟知しない人は使用しないで下さい。 ●法定資格のない人は、絶対にクレーン操作、玉掛け作業をしないで下さい。 (クレーン等安全規則第 221 条・第 222 条) ●吊り上げ運搬中や反転作業中には、吊り荷の落下、転倒範囲内に立ち入らないで下さい。(クレーン等安全規則第 28 条・第 29 条) ●玉掛け作業以外には、使用しないで下さい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●作業開始前の点検や定期点検を必ず実施して下さい。 (クレーン等安全規則第 217 条・第 220 条) 	



2. 作業前の確認について





 危 険	
<ul style="list-style-type: none"> ●作業方法に適合しないクランプは、使用しないで下さい。 ●クランプの変形、亀裂、作動不良、磨耗等異常のあるものは使用しないで下さい。 ●吊り荷の条件が次の場合は、クランプを使用しないで下さい。 (ぜい性材、高硬度材、および低硬度材や強度の著しく低い材料、つかみ部の勾配が抜け勝手に 10° 以上ある部材) 	
<ul style="list-style-type: none"> ●クランプ本体に表示された型式、基本使用荷重、開口寸法、定期点検済表示を確認してください。 ●吊り荷の荷重が、使用するクランプの基本使用荷重の許容範囲内であること。 ●吊り荷の板厚が、使用するクランプの許容範囲内であること。 	
 注 意	
<ul style="list-style-type: none"> ●環境の条件が次の場合は、クランプを使用しないで下さい。 (吊り荷の温度が 150℃以上の高温、および-20℃以下の低温、酸・アルカリ等薬品の付着) 	
<ul style="list-style-type: none"> ●クランプに使用するスリングは、玉掛け作業に適合したものを使用して下さい。 	

3. 使用方法と玉掛け作業について






 危 険	
<ul style="list-style-type: none"> ● クランプで、次のような吊り方は使用しないで下さい。(重ね吊り、当て物吊り、段吊り、共吊り、および横つかみ吊り) ● クランプで、鋼矢板の引き抜き、およびそれらのタテ吊り作業をしないで下さい。 ● 強風時、危険が予想される場合は、クランプを使用しないで下さい。 ● 油圧ショベルでは、クランプを使用しないで下さい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● クランプの吊り角度、および掛け幅角度は、型式にあった規定の角度以内であること。 ● クランプの開口部の奥まで、差込んでください。 ● ロック装置付きのクランプを使用する場合は、必ずロックを掛けて使用して下さい。 	
 注 意	
<ul style="list-style-type: none"> ● 吊り荷のつかみ部に、油、塗料、スケール、サビ等の付着物がある場合は、使用しないで下さい。 ● クランプを投下したり、引きずったりしないで下さい。 	

4. クレーンの操作について

 危 険	
<ul style="list-style-type: none"> ● クランプの基本使用荷重を超える吊り荷は、絶対に吊らないで下さい。 ● 吊り荷やクランプに、衝撃荷重が働くようなクレーン操作はしないで下さい。 ● クランプで吊った荷に、人は乗らないで下さい。また、人の乗る用途には、絶対に使用しないで下さい。 ● クランプで、地球吊りをしないで下さい。 ● 吊り荷を吊り上げ中に、クランプのロックを開放しないで下さい。 ● 吊り荷から取り外したクランプを、再度吊り荷に引っ掛けたり、隣接の部材に当てたりしないで下さい。 	

<ul style="list-style-type: none"> ●クレーンで巻き上げる場合、吊り環に荷重が掛かった時点で、一旦停止して、安全確認（差し込み深さ、ロック状態）をして下さい。 ●着地前に一旦停止して、次の事項を確認して下さい。（吊り荷の傾き、転倒、および着地場所とその周辺の安全確保） 	
 注 意	
<ul style="list-style-type: none"> ●吊り荷を引きずるようなクレーン操作はしないで下さい。 ●クランプで吊り荷を吊ったまま、クレーンの運転位置から離れないで下さい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●クレーンの上下作動は、静かに丁寧に行って下さい。 	

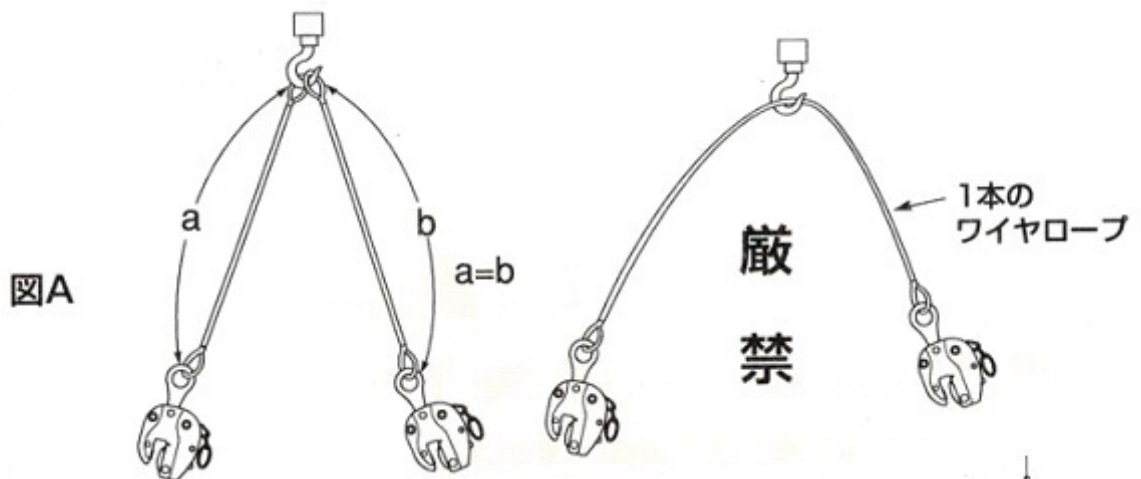
5. 保守点検・保管・改造について

 危 険	
<ul style="list-style-type: none"> ●クランプ、および付属品の改造は、絶対にしないで下さい。 ●クランプ、および付属品に溶接、加熱などをしないで下さい。 ●当社純正部品以外は、絶対に使用しないで下さい。 ●修理が必要なクランプは、別の場所に保管し、誤って使用されないようにして下さい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●保守点検、修理は、事業者が定めた専門知識のある人が行なって下さい。 ●保守点検で異常のあった場合は、そのまま使用せず、ただちに補修、または廃棄して下さい。 ●クランプの可動部、カム、受け金（パッド）にかみ込んだ塗料・汚泥等を除去して下さい。 	
 注 意	
<ul style="list-style-type: none"> ●保守点検、修理をする場合は、必ず空荷（吊り荷がない）の状態で行ってください。 ●保守点検、修理をする場合は、点検作業中の表示（「点検中」等）を必ず行って下さい。 ●クランプの回転部分（ピン回り）・ガイド溝等、摺動部に必ず注油して下さい。 ●クランプは必ず室内に保管して下さい。 	

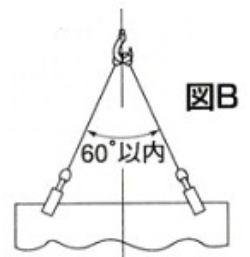
【ご注意】 分解・組み立てに伴う検査項目・点検基準は、取扱販売店、または当社営業所までご用命下さい。

■一般的なクランプ取扱上の注意（各機種共通）

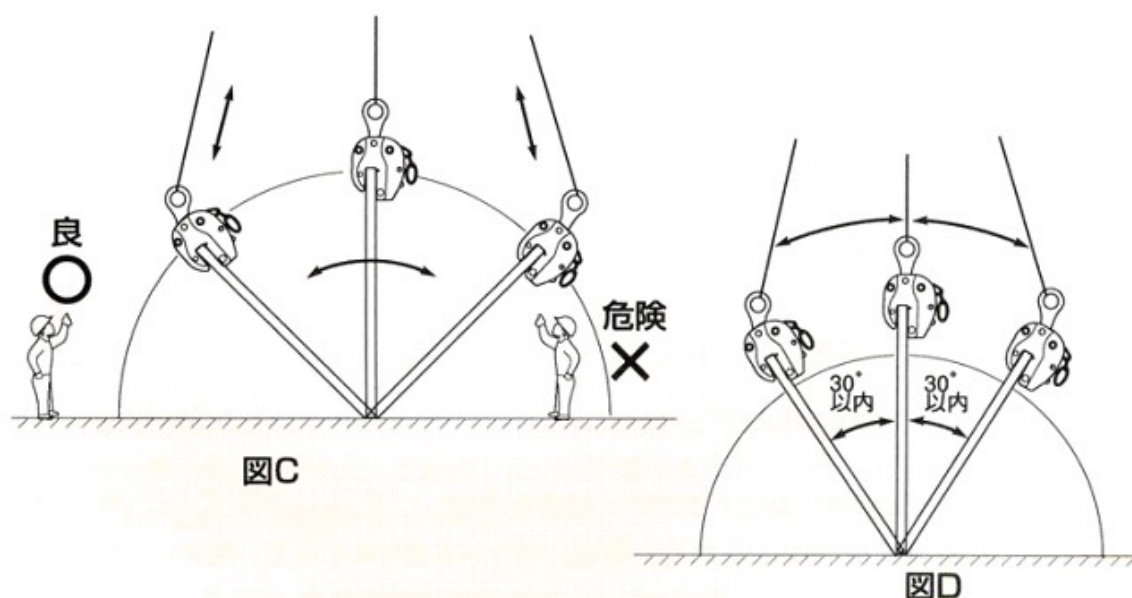
1. 必ず用途に応じた形式のクランプをご使用下さい。吊り方向（ロープ角度）に特にご注意下さい。
2. 吊り荷の重量を確認し、クランプの容量（表示トン数）以上のものには使用しないで下さい。（オーバーロードの禁止）
3. 使用前に次の点を確認して下さい。
 - （イ）クランプの容量は適正か。
 - （ロ）クランプの作動に異常がないか、シャックルボルトの緩みはないか。
 - （ハ）カム及びパッドの歯面には油脂、その他の異物の目詰まりはないか。
4. グリップ範囲外の寸法の吊り荷には使用しないで下さい。
5. グリップの際、吊り荷が本体の開口部の奥に当るまで充分に差込んでクランプして下さい。
6. クランプの形式容量により異なりますが、一般的に硬質物並びに軽量物（定格容量の1/5以下又は最大グリップの1/4以下）の吊上げにはカム、パッドの歯先の噛み込みが不十分となりがちですので、クランプ状態を確認の上、安全には特にご注意下さい。
7. 安全ロック付きのものは必ずロックが完全にセットされていることを確認して下さい。
8. 吊り荷の荷重がアンバランスにならぬよう、特にクランプ位置又はロープの重心の割出しを厳格に行って下さい。特に横方向の重心の割出しは重要です。
9. ワイヤロープ・チェーンスリングを使用する場合は、クランプ1台に対して必ず1本での使用とし、その長さは等しくなる様にしてください。（図A）



10. 吊り角度は60°以内にしてください。（図B）
（ただし、機種により吊角度が60°以下で規定されているものはその規定に従ってください。）なお、長尺物の場合は、天秤吊にて作業して下さい。



11. 鋼板や鋼材等の 2 枚以上の重ね吊りは出来ません。
12. 吊上げの際は吊り荷が地面をはなれる瞬間に予期せぬ方向に移動することがありますので、吊上げを一時中止し重心の状態、くわえ位置など安全状況を確認の上、吊上げて下さい。クランプに荷重が完全にかかりバランスがとれるまでは危険時間です。
13. 反転作業もしくはそれに類する作業においては鋼板の反転距離内に立入らないで下さい。(図 C)
14. クランプで吊った荷に、人は乗らないで下さい。また人の乗る用途には絶対に使用しないで下さい。
15. 鋼板の反転瞬間角度は最大 30° 以内に保って下さい。(図 D)



16. 吊り荷に油脂類その他スケールやさび止め塗料等が付着していると、クランプ力が著しく低下しますので、必ず除去してから作業を行って下さい。
17. 吊上げ作業中はクランプや吊り荷を他の物に当てたり引掛けたりしないで下さい。(特に吊下し作業中はご注意下さい。) 衝撃やロープのゆるみで落下事故の原因となります。
18. 一旦着地させた後、再吊上げをする時はクランプ状態を再確認して下さい。スクリーカムクランプの場合は必ず規定トルクでの増し締めを行って下さい。
19. 加熱物又は腐蝕液中での使用は、安全率、耐久度が低下しますので使用しないで下さい。
20. クランプの改造・溶接・加熱などはしないで下さい。
21. クランプを吊り荷に取付けたままで、電気溶接をしないで下さい。
22. 日常の点検及び注油を行って下さい。

■ クランプの管理及び点検

I クランプの管理方法

クランプは苛酷な使用条件でも能率的な安全作業を行うために、日常の管理が大切です。そのためには次の事項を守ってください。

- (1) クランプの使用基準を明示し管理して下さい。
- (2) 保管場所は屋内とし屋外に放置しないで下さい。
- (3) 次の点検をし、完全な状態で保全に注意して下さい。
 - (イ) 作動状態
 - (ロ) カム、パッドの歯先の摩耗や欠損及び目詰まり。
 - (ハ) 本体のひずみ、特に開口部の開き。
- (4) 使用中又は点検時に発見した危険なクランプは故障修理箇所等を明記の上、良品と区別し、早急に整備して下さい。
- (5) 保管するときは、カムとパッドの歯先の保護のため、木片などの軟質材をはさんで保管して下さい。
- (6) メーカーの点検は必ず受けるようにして下さい。
- (7) 各事業所で独自に日時を決めて定期的に「点検基準」を参照の上、点検、整備を実施して下さい。また、作動部には注油をして下さい。(ただし、カム、パッドの歯部の油分は除去して下さい。)

II 定期点検

定期点検整備基準に基づき定期的に検査を実施して下さい。クランプはご使用いただく業種、使用条件などそれぞれ多様にわたっておりますので、機能や寿命が大きく異なってきます。従って使用者によって効果的な取扱基準、点検基準を作成し、自主的に実施して頂くことをお勧めします。そのためには、スーパークランプの点検基準を参考にぜひ徹底した管理保全により安全確保を期されますようお願いいたします。

なお、修理部品は簡単に交換できるような構造になっていますので確実に実施して下さい。また部品は常備する事をお勧めいたします。

基準作成にあたり次の事項にご留意下さるようお願いいたします。

- (1) 取扱基準
 - (イ) 使用基準（吊り荷の形状、作業方法による）の作成。
 - (ロ) 取扱使用上の注意事項の徹底。
 - (ハ) 管理、保管上の注意。
- (ニ) 現場チェックの義務づけ。

(2) 定期点検基準

(イ) 定期点検実施日の確立

(ロ) 点検整備方法の確立

a) 点検実施の時期

b) 点検責任者

c) 点検実施場所

d) 点検、検査の用具

e) 使用限界の確立

f) 補修の場合の処置と方法の明示

Ⅲ メーカー点検の方法

弊社では次のような方法で点検を行っております。

(1) 作動状態のチェック

(2) カム、パッドの歯先の摩耗や欠損および目詰りのチェック

(3) 本体の歪みチェック

(4) シャックルの歪みチェック

(5) ボルト、ピン、リンク、ばねの状態チェック

(6) 全般的な深傷チェック

(7) その他点検基準による検査項目のチェック

< 吊具のコンサルタントとして気軽にご相談下さい。 >

ご希望により特殊吊具を製作いたします。

ご照会については下記事項をお知らせ下さい。

(1) 取り扱う品物の材質及び重量

(2) 取り扱う品物の形状及び寸法

(3) 取り扱う方法（使用目的、掴み位置）

(4) クランプの容量（グリップ範囲、最大容量）

(5) 周囲の状況

(6) その他ご要望事項

■用途

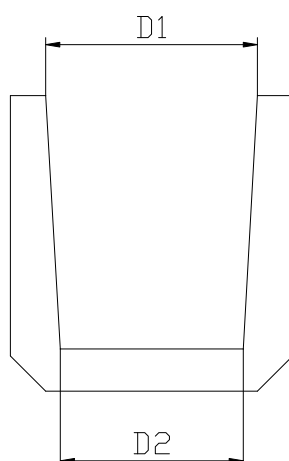
鉄筋コンクリートU形・落蓋式U字溝・情報ボックスU形専用吊クランプです。

■特長

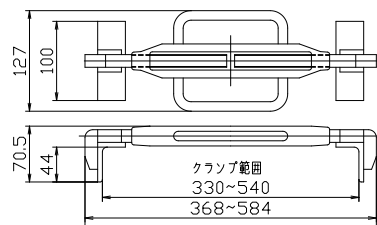
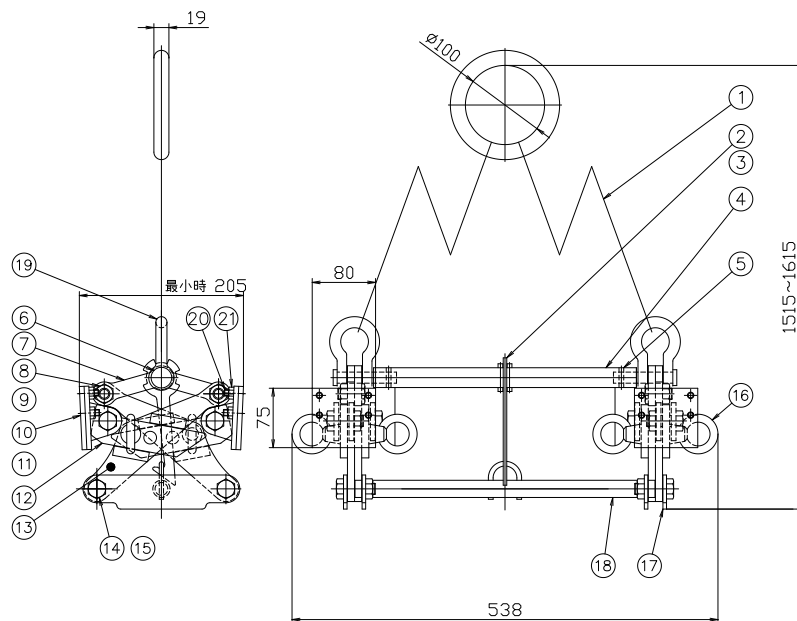
1. U字溝割れ止めホルダー付。(本体と必ずセットでご使用下さい。)
2. 2段階のクランプ調整式。
3. 吊具が道糸に接触せず、また、側溝の外側に必要以上の空間が不要。
4. パッドにはスパイク機構を採用しており、吊り荷を確実にクランプします。
5. パッド表面には特殊ゴムを採用しており、スパイクを引っ込めることで無傷パッドとしてもご使用可能です。
6. 開放ロックへの切替がストッパーのワンタッチ操作で簡単。

■仕様

品番	容量	重量	クランプ範囲 (2段階調整式)	適用U字溝及び参考寸法			
				呼び及び規格	D 1	D 2	長さ
BUC240N	500kg	12kg	1 段目 220～240mm	U形 240	240mm	220mm	600～ 2000mm
				落蓋式U字溝 250	250mm	230mm	
			2 段目 260～290mm	情報ボックス 250×250	270mm	250mm	
				U形及び 落蓋式U字溝 300A、300B、300C	300mm	260 ～280mm	



■ 部品名称及び主要寸法図

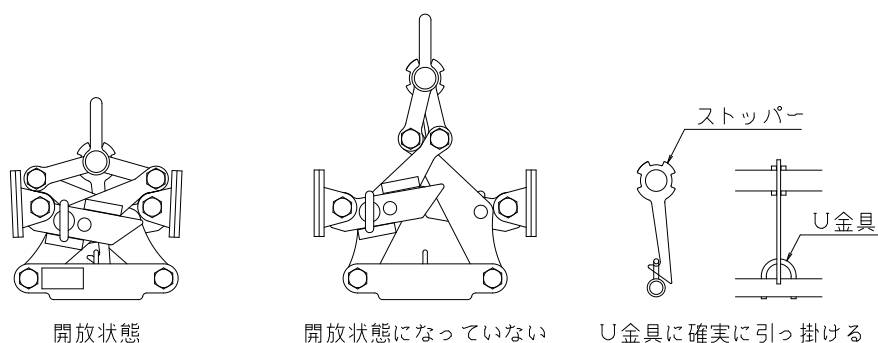


②② 割れ止めホルダー

部品番号	部品名称	数量	部品番号	部品名称	数量
1	吊環・ワイヤロープ	1	1 2	調節プレート	4
2	ロックレバー	1	1 3	爪	4
3	スプリングピン (φ6×35)	2	1 4	爪支持ピン	4
4	連結パイプ	1	1 5	カラー	4
5	スプリングピン (φ6×25)	2	1 6	アイナット	4
6	シャックル支持ピン	2	1 7	本体プレート	2
7	リンク	4	1 8	本体	1
8	リンク支持ピン	4	1 9	シャックル	2
9	Uナット	1 2	2 0	スパイク	1 6
1 0	パッド	4	2 1	ナット	1 6
1 1	パッド支持ピン	4	2 2	割れ止めホルダー	1

■使用方法

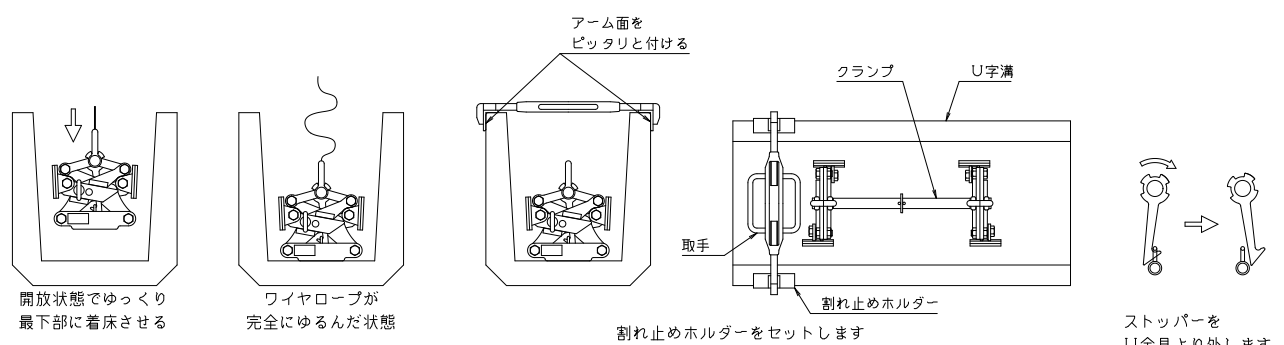
①吊上げ準備



クランプを吊上げ、上図のような開放状態になっているか、確認して下さい。

開放状態になっていない場合は、ストッパーを本体のU金具に引っ掛け、再度吊上げると開放状態になります。

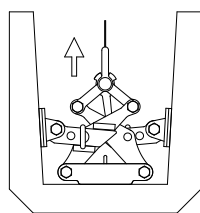
②U字溝へのセット



開放状態にしたクランプをU字溝の上に移動し、ワイヤロープが完全にゆるむまで最下部に着床させます。次に割れ止めホルダーをクランプすぐ横にセットします。この時、割れ止めホルダーのアーム面がピッタリとU字溝につくように、本体に有る取手を回転させ、しっかりと締め込みます。次にストッパーをU金具より外します。これで吊上げ可能となります。

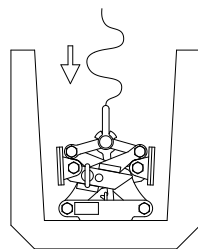
注：割れ止めホルダーはかならず使用して下さい。割れ止めホルダーを使用せずに吊上げた場合、U字溝が割れ、事故の原因となります。

③吊上げ



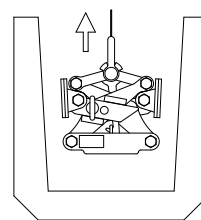
吊上げると自動的にクランプは締付状態となり、クレーンを巻き上げるとU字溝を確実にクランプします。

④搬送・着地



U字溝を所定の位置に搬送後、U字溝が確実に安定したか確認の後、ワイヤロープが完全に緩むまで巻き下げてください。

⑤開放



ストッパーをU金具に引っ掛け、再度吊上げるとクランプが開放状態となり、クランプのみが移動でき、次の作業へ移る事が出来ます。

注：ワイヤロープを巻き下げた時、ストッパーが自動的にU金具に引っ掛かっている場合があります。

U字溝の位置決めなどにより吊直しする場合は、ストッパーがU金具からはずれているか必ず確認して下さい。

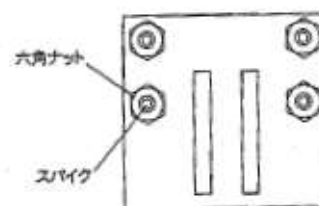
■部品の交換方法

スパイクの調整／交換方法

パッドを無傷パッドとしてご使用される場合、又はスパイクが磨耗した場合、スパイクを調整又は交換する必要があります。

- ①六角ナットを緩め、六角レンチ又はマイナスドライバー等でスパイクを回し、調整又は交換して下さい。

- ②六角ナットを締付けて下さい。



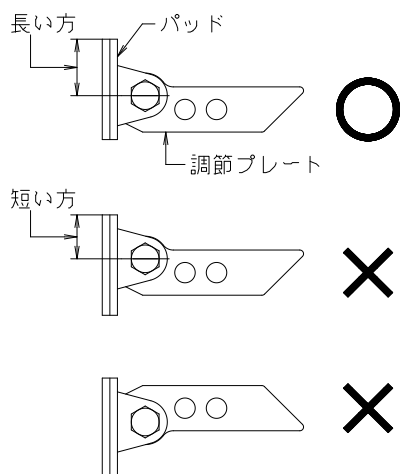


危険

■取扱注意事項

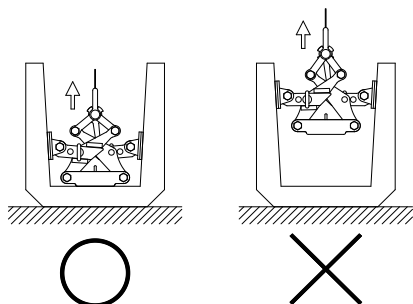
1. 吊り上げ作業中は、落下事故等为了避免のため危険範囲内に入らないで下さい。特に吊荷の下に入るのは、非常に危険です。絶対に入らないで下さい。

2. 適用クランプ範囲外のU字溝は絶対に吊らないでください。調節プレートの調節は、吊上げるU字溝の大きさに合わせて下さい。また、パッドの取付は長いほうを上側にくるように正しく取付けて下さい。

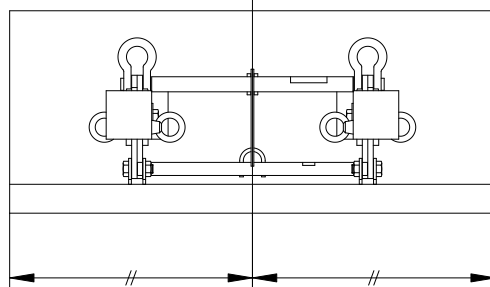


3. 吊り上げ物の重量を確認し、クランプ容量以上の物には使用しないで下さい。

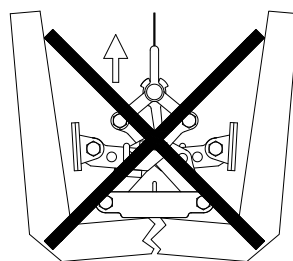
4. クランプのセット位置は必ず中央、U字溝の重心を吊り上げて下さい。
尚、クランプは必ず最下部にセットして下さい。



重心

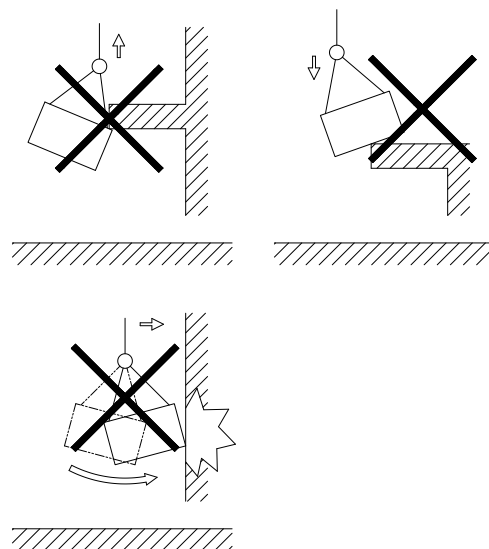


5. 急激なショック操作はしないで下さい。クランプ、U字溝の破損・落下の原因となります。

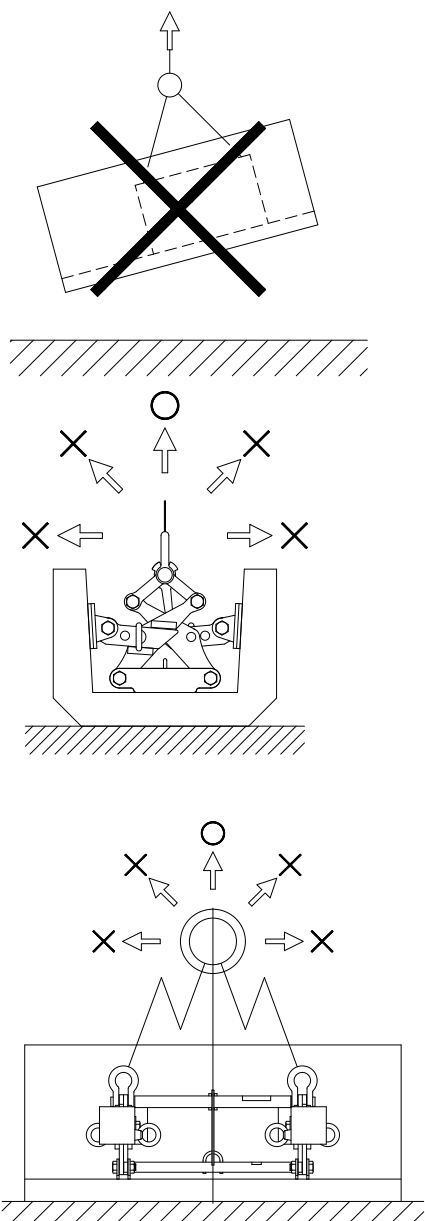


6. 吊り上げ移動中、本体及びU字溝を他の物に引っ掛けたり当てたりしないで下さい。

衝撃やワイヤロープのゆるみで落下事故の原因となります。



7. 斜め吊り・横引き等は、しないで下さい。

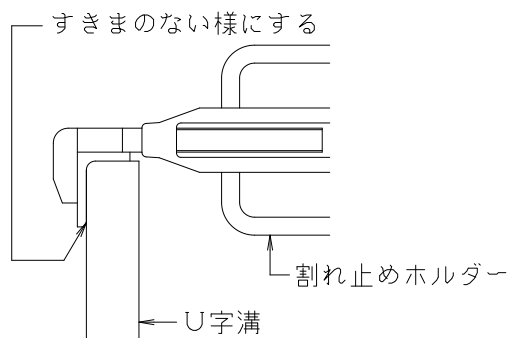


8. 既設U字溝の引き抜きには、絶対に使用しないで下さい。

9. クランプを落としたり、大きな衝撃を与えないで下さい。

10. パッド及びU字溝に水・雪・氷・油・砂・泥等が付着した状態で使用しないで下さい。U字溝がすべる恐れがありますので、乾いた布等で除去してから使用して下さい。

11. 吊り上げ時は、必ず割れ止めホルダーをクランプのすぐ横にセットして下さい。またアーム面がピッタリとU字溝に付くようにして下さい。



注: 割れ止めホルダーを使用しない時での吊上げはU字溝を割り事故の原因となりますので必ずセットして下さい。

12. バーナー切断、溶接等によるユーザー独自の改造は絶対にしないで下さい。

13. 可動部には、定期的に注油して下さい。尚、パッド表面には油等が付着しないように、注意して下さい。

14. 別記の点検基準に基づき、各部の作動に異常がないか日常点検を行って下さい。特に使用限界については、常にご留意下さい。

15. 本クランプはコンクリート専用クランプです。コンクリート製品以外（鉄板・鋼材）の使用は滑る恐れがあり危険です。絶対に使用しないで下さい。



注 意

■クランプの管理及び点検

1. クランプの管理方法

クランプが過酷な使用条件にも効率的に安全作業ができるためには、日常の管理が大切です。そのためには次の事項を守って下さい

- (1) クランプの使用基準を明示し、管理して下さい。
- (2) 保管場所は屋内とし、屋外に放置しないで下さい。
- (3) 次の点検をし、完全な状態で保全に注意して下さい。
 - (イ) 作動状態
 - (ロ) パッドの摩耗
 - (ハ) 本体の変形や歪み
- (4) 使用中または点検時に発見した危険なクランプは故障修理箇所等を明示の上、良品と区別し早急に整備して下さい。
- (5) メーカーの点検は必ず受けるようにして下さい。
- (6) ボルトやピン等の作動部には毎週1回は注油して下さい。(但しパッドのウレタンゴムの表面に油がかからないように注意して下さい。ワーク落下の原因につながる恐れがあります。)

2. 定期点検

定期点検基準に基づき定期的に検査を実施して下さい。クランプはご使用いただく使用条件等によって、機能や寿命が大きく異なります。従って、使用者によって、効果的な取扱基準、点検基準を作成し自主的に実施して頂くことをお奨めします。

そのためにはスーパークランプの点検基準を参考にぜひ徹底した管理保全により、安全確保を期されますようお願いいたします。

異常が発見されたなら、異常箇所を明示の上、メーカー点検を受けられますようお願い

致します。基準作成にあたり、次の事項にご留意下さるよう希望します。

(1) 取扱基準

- (イ) 使用基準（吊荷の形状、作業方法による）の作成
- (ロ) 取扱使用上の注意事項の徹底
- (ハ) 現場チェックの義務づけ

(2) 定期点検基準

- (イ) 定期点検実施日の確立
- (ロ) 点検整備方法の確立
 - a) 点検実施の時期
 - b) 点検責任者
 - c) 点検実施場所
 - d) 点検、検査の用具
 - e) 使用限界の確立
 - f) 補修の場合の処置と方法の明示

3. メーカー点検の方法

弊社では下記項目が正常であるかの点検を行っております。

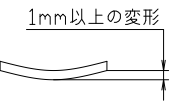

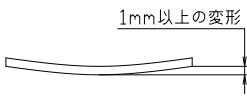

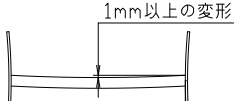
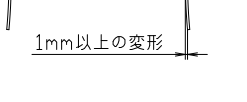
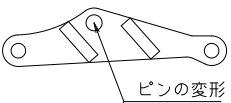

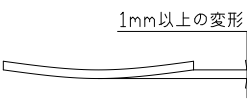
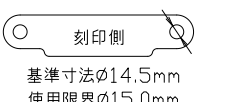
- (1) 作動状態のチェック。
- (2) パッドの摩耗
- (3) リンク等の変形や歪みのチェック
- (4) シャックルの歪みのチェック
- (5) ボルト、ピン、リンク、ワイヤロープの状態チェック。
- (6) その他点検基準による検査項目のチェック。

■日常点検

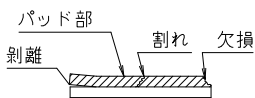
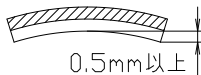
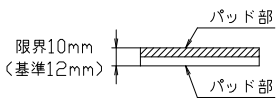
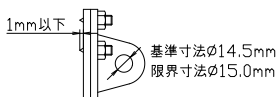
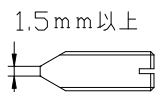

作業の安全と能率低下を防ぐためにも日常の点検と手入れを実施して下さい。

1. リンクやパッド各部に傷及び割れ等の損傷がないか。
2. ボルト・ナットやピン類の取付状態はよいか。
3. 各部作動および注油の状態はよいか。
4. パッドの摩耗や欠損の有無。
5. その他点検基準を参照下さい。

■点検基準

項目	点検方法	使用限界	主な不良原因	処置
リンク関係	<ul style="list-style-type: none"> ●ピン穴の変形測定 (測定具) ●曲りや変形がないか (目視又は測定具) 	<ul style="list-style-type: none"> ●0.5mm 以上の変形・ 摩耗があったとき (ピン穴) ●1mm 以上の変形・摩耗 があったとき (曲り)       <ul style="list-style-type: none"> ●異常音や引っ掛かりが 生じた場合  	<ul style="list-style-type: none"> ●オーバーロード ●急激なショック荷重 ●使用による摩耗等 ●注油不足 	取替
		 	<ul style="list-style-type: none"> ●オーバーロード ●急激なショック荷重 ●使用による摩耗等 ●注油不足 	廃却

項目	点検方法	使用限界	主な不良原因	処置
シャックル	<ul style="list-style-type: none"> ●傷・割れはないか (目視又はカラーチェック) ●吊上げ部が摩耗していないか (測定具) ●穴の変形 (測定具) ●JIS規格点検基準に準じて下さい 	<ul style="list-style-type: none"> ●目視等で変形が確認されたとき 	<ul style="list-style-type: none"> ●無理な吊角度 ●急激なショック荷重 ●オーバーロード ●使用による摩耗等 ●移動中地面とすり摩耗した 	取替
ワイヤロープ	<ul style="list-style-type: none"> ●傷や索線切れはないか (目視) ●キンクを起こしていないか (目視) ●錆が出ていないか (目視) ●JIS規格点検基準に準じて下さい 		<ul style="list-style-type: none"> ●急激なショック荷重 ●オーバーロード ●ワイヤーのねじれ ●注油不足 	取替
各ボルト及びピン	<ul style="list-style-type: none"> ●軸部の摩耗 (目視又は測定具) ●曲がりや変形がないか (目視又は測定具) 	<ul style="list-style-type: none"> ●0.5mm 以上の変形、摩耗があったとき 	<ul style="list-style-type: none"> ●オーバーロード ●急激なショック荷重 ●使用による摩耗等 	取替
ストッパー	<ul style="list-style-type: none"> ●ピン穴の変形測定 (測定具) ●曲がりや変形がないか (目視又は測定具) 	<ul style="list-style-type: none"> ●1mm 以上の変形、摩耗があったとき 	<ul style="list-style-type: none"> ●急激なショック荷重 ●使用による摩耗等 ●注油不足 	取替

項目	点検方法	使用限界	主な不良原因	処置
スパイク パッド	●パッドの割れや欠損・剥離などがないか（目視）	●目視にて割れや欠損・剥離を確認した時 	●オーバーロード ●急激なショック荷重 ●使用による摩耗等 ●パッド平面以外での使用	取替
	●湾曲や変形がないか（目視または測定具）	●0.5mm以上の湾曲や変形がある時 		
	●ゴムパッドの摩耗がないか（目視または測定具）	●厚みが10mm以下になった時 		
	●ボルト穴の摩耗や変形がないか・スパイクの出しろは適正か（目視または測定具）	●基準寸法より0.5mm以上の摩耗や変形がある時 ●スパイクの出しろが1mm以下になった時（無傷パッドとしてご使用の場合は、パッド表面より約1mm下げて下さい） 		
	●スパイクの摩耗や変形・欠損がないか（目視または測定具）	●摩耗幅が1.5mm以上 また変形・欠損がある時  		

U字溝吊クランプ内張型(パッド式) 定期自主点検記録

品番: BUC240N 容量: 500kg 製造番号: _____ 使用開始日: _____ 年 月 日

点検容量は前頁の点検基準を参考に行ってください。

点 検 年 月 日	点 検 部 品 名 称							総合判定(○・×)	点検者 印
	リンク関係	シャックル	ワイヤロープ	各ボルト及びピン	ストッパー	パッド	スパイク		

記号	点検内容
✓	点検して異常なし
T	締付整備をして異常なし
L	注油をして異常なし
C	清掃をして異常なし
○	部品を交換して異常なし
×	使用限界を超えている

- 点検の頻度は各事業所で独自に日時を決めて定期的に行ってください。
- 上記表中の各部品の点検の結果、左表の該当する点検内容の記号を書込んで下さい。
- 点検の結果、各部品に1つでも×の項目があった場合、総合判定は×として下さい。その場合、クランプの使用は出来ません。(×の項目を修理してから再度点検を行い総合判定で○となった後、使用を再開して下さい。

株式会社 **スーパーツール**

<https://www.supertool.co.jp/>



□本社・工場	〒599-8243	大阪府堺市中区見野山158番地	TEL.072-236-5521(代)	FAX.072-236-5785
□大阪支店	〒599-8243	大阪府堺市中区見野山158番地	TEL.072-236-5526(代)	FAX.072-236-3817
□東京支店	〒142-0041	東京都品川区戸越3丁目4-18 ゴールドステージビル4F	TEL.03-5750-2341(代)	FAX.03-5750-2347
□名古屋支店	〒460-0026	名古屋市中区伊勢山1丁目2-4	TEL.052-323-0701(代)	FAX.052-323-0720
□札幌	〒003-0029	札幌市白石区平和通3丁目北4-20	TEL.011-864-3581	FAX.011-864-3590
□仙台	〒984-0831	仙台市若林区沖野2丁目8-5	TEL.022-294-1922	FAX.022-285-1513
□北関東	〒337-0004	さいたま市見沼区卸町2丁目6-9	TEL.048-682-5000	FAX.048-682-5059
□広島	〒733-0012	広島市西区中広町2-14-27	TEL.082-293-5570	FAX.082-293-5531
□福岡	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南3-10-23	TEL.092-431-1897	FAX.092-431-1909